

交通消費者行政レポート

(平成22年度報告)



写真：波照間海運 新造船「ぱいぱていろーま」

内閣府沖縄総合事務局運輸部

目 次

1. 沖縄総合事務局運輸部における交通消費者行政の動向について

【沖縄総合事務局運輸部企画室の年間活動報告】

(1) 平成22年度「バリアフリー教室」の開催

①宮古島市バリアフリー教室

～んみゃーち美ぎ島宮古島から心のバリアフリーを！～ 1

②石垣市バリアフリー教室

～アンガマの島から心のバリアフリーを！～ 2

(2) 平成22年度「バリアフリープロモーター活動」の実施 2

(3) 平成22年度「第2回沖縄地方バリアフリー推進連絡会議」の開催 . . 4

2. 平成22年度 交通関連行政相談の概要

(1) 行政相談件数 5

(2) 行政相談の主な事例 6

3. バリアフリー化の状況

(1) 車 両 等 7

(2) 旅客施設 7

4. お知らせ

(1) 交通消費者相談窓口一覧 9

(2) ホームページによるご意見・ご質問の募集 9



1. 沖縄総合事務局運輸部における消費者行政の動向について

【沖縄総合事務局運輸部企画室の年間活動報告】

（１）平成２２年度「バリアフリー教室」の開催

運輸部では、開発建設部と連携し、高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等の疑似体験や介助体験等を通じてバリアフリーについての理解を深めてもらうとともに、ボランティアに関する意識を醸成し、誰もが高齢者、視覚障がい者、身体障がい者等に対し「お手伝いしましょう」とごく自然に声をかけてサポートできる「心のバリアフリー」を目指しています。

①宮古島市バリアフリー教室

～んみゃーち美ぎ島宮古島から心のバリアフリーを！～

日時：平成２２年１０月２２日（金）９：３０～１２：００

場所：宮古島市立鏡原小学校体育館（座学）、宮古空港ターミナルビル（体験学習）

対象：宮古島市立鏡原小学校６年生（２８名）

内容：高齢者疑似体験、アイマスク体験、車いす体験及び介助体験

児童からの声

「アイマスクは周りが見えなかったのでもともと怖くて歩きづらかった。車いすはＵターンするのが難しく壁にぶつかってしまい大変だった。困っている人がいれば、荷物を持ったり道案内をしたり手助けしたい。」



【講義を聴く児童】



【高齢者疑似体験】



【アイマスク体験】



【車椅子体験】

②石垣市バリアフリー教室

～アンガマの島から心のバリアフリーを！～

日時：平成22年12月3日（金）14：00～16：15

場所：石垣市立宮良小学校体育館

対象：石垣市立宮良小学校4・5・6年生（61名）

内容：高齢者疑似体験、アイマスク体験、車いす体験及び介助体験のほか、白内障疑似体験用ゴーグルの体験、リフト付きバス乗車体験、絵本「バナナ」の読み聞かせ

児童からの声

「今までは困っている人を見かけてもなかなか声をかけられなかったけど、この授業を受けて、困っている人のお手伝いの仕方を知りました。これからは困っている人を見かけたら迷わず助けてあげたいと思います。」



【高齢者疑似体験】



【リフト付きバス乗車体験】



【白内障疑似体験用ゴーグルの体験】



【絵本「バナナ」の読み聞かせ】

（２）平成２２年度「バリアフリープロモーター活動」の実施

現在、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」というユニバーサルデザインの考え方を踏まえた「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」（以下、「バリアフリー新法」という。平成１８年１２月２０日施行）に基づき、高齢者や障がい者等の方々が社会参加をするために重要な公共交通機関や建築物等についての移動円滑化施策が全国各地で進められているところです。

運輸部では、開発建設部と連携し、市町村によるバリアフリー新法に基づく基本構想策定の取組を促進することを目的として、基本構想策定のノウハウを必要としている市町村に対して、専門家等からなるバリアフリープロモーターを派遣し、バリアフリー新法の解説、基本構想策定までの流れ、策定メリットの紹介、補助制度の説明、他の市町村の事例紹介を実施しています。

平成２２年度は、１日あたりの旅客利用者数が５千人を超える旅客施設を複数有する那覇市に対してプロモーター活動を実施しました。

日時 平成２２年９月２８日（火）１４：００～１６：００

場所 那覇市役所銘苅庁舎３階 第１研修室

内容 ①講演「バリアフリー基本構想作成の必要性：国際的な動向を踏まえて」

講師 琉球大学法文学部人間科学科 教授 高嶺 豊

②「那覇市におけるバリアフリーの取り組みについて」

那覇市健康福祉部 副部長兼福祉政策課長 島村 聡

那覇市都市計画部 参事兼都市計画課長 新垣 昌秀

③「バリアフリー新法と基本構想について」

～バリアフリー新法と基本構想作成ガイドブックのポイント～

沖縄総合事務局運輸部企画室 室長 広瀬 行久

④「社会資本整備重点計画におけるバリアフリー関係指標及び補助制度の説明」

沖縄総合事務局開発建設部建設行政課 課長 佐野 俊光

⑤事例紹介「山口市における基本構想作成の事例紹介」

山口県山口市都市整備部都市計画課 主査 吉武 紀幸

⑥質疑応答・意見交換



【高嶺教授による講演】



【講義の様子】

（３）平成２２年度「第２回沖縄地方バリアフリー推進連絡会議」の開催

地域の一体的・総合的なバリアフリー化を進めるためには、関係者相互の協力と連携を強めることが重要となっています。本会議は地域の学識経験者、障がい者団体、ＮＰＯ法人、施設設置管理者、行政等が一堂に会し、情報や意見の交換を行い、お互いの取組に理解を深め、バリアフリーの現状や課題を共有し、よりより協力関係を築き、連携してバリアフリー化の進展に寄与することを目的として開催しました。

今回は、平成２２年度沖縄県福祉のまちづくり推進功労者表彰の沖縄県知事賞を受賞した沖縄大学から、人文学部福祉文化学科の谷口正厚教授を招聘し、取組事例の紹介をして頂きました。

- 日 時 平成２３年３月２４日（木）１４：００～１６：００
場 所 那覇市職員厚生会「厚生会館」３階 多目的ホール
主 催 沖縄総合事務局運輸部・開発建設部
議 事 ①「国土交通省におけるバリアフリー施策について」
沖縄総合事務局運輸部企画室 室長 広瀬 行久
②「沖縄総合事務局のバリアフリーの取組について」
沖縄総合事務局運輸部企画室 室長 広瀬 行久
沖縄総合事務局開発建設部建設行政課 課長 佐野 俊光
③事例紹介『「新沖縄大学宣言」とユニバーサルデザインの取り組み』
沖縄大学人文学部福祉文化学科 教授 谷口 正厚
④質疑応答・意見交換



【会議の様子】



【谷口教授による事例紹介】

2. 平成22年度 交通関係行政相談の概要

(1) 行政相談件数

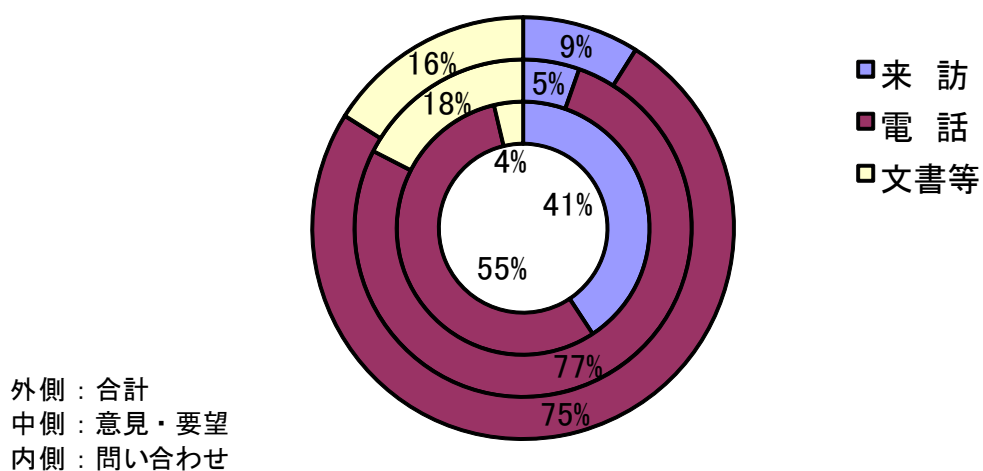
平成22年度に各担当課に寄せられた意見・要望は、268件です。

形態別では、問い合わせが27件、意見・要望が241件となっています。モード別ではハイヤー・タクシー関係が173件（64.6%）と最も多く、次いでバス関係が50件（18.7%）、自動車検査・整備関係が29件（10.8%）となっています。

①形態別

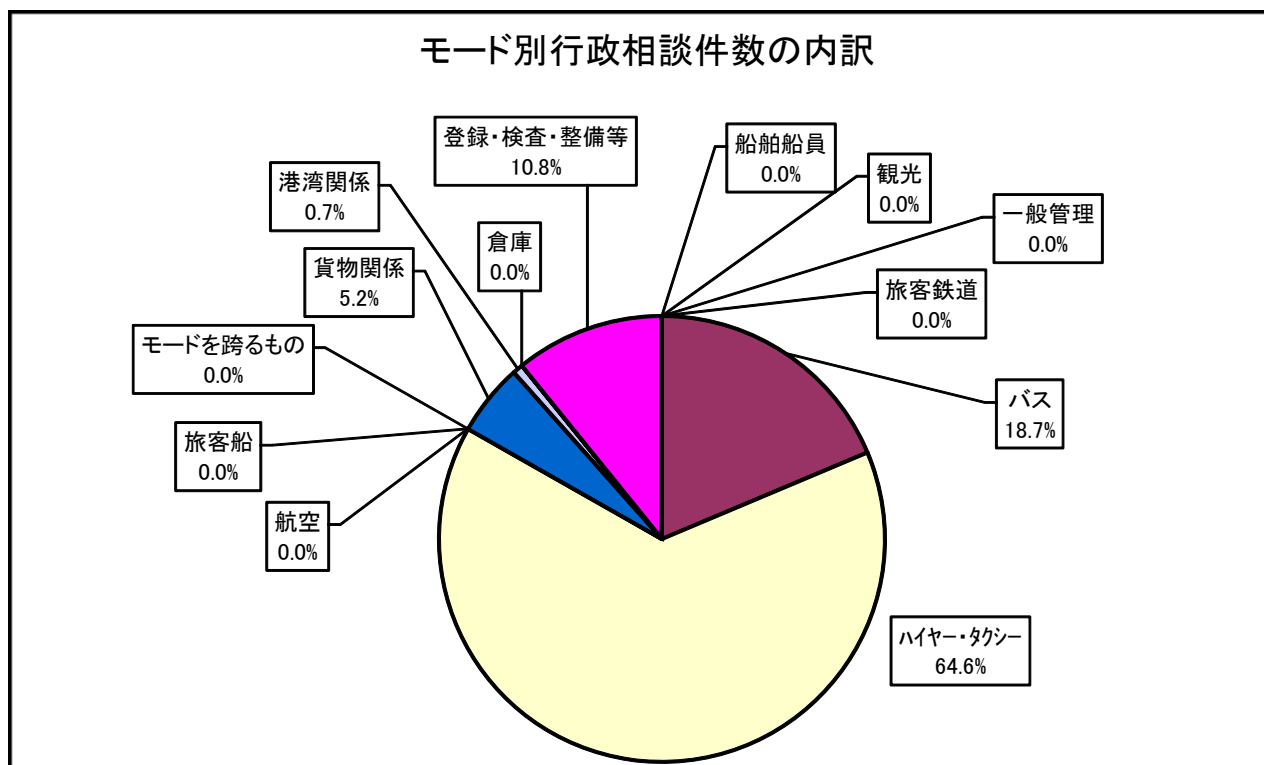
区分	来訪	電話	文書	計
問い合わせ	11	15	1	27
意見・要望	13	186	42	241
合計	24	201	43	268

形態別行政相談件数の内訳



②モード別

区分	旅客 鉄道	バス	ハイヤー タクシー	航空	旅客船	モードを 跨るもの	貨物	港湾	倉庫	登録・検 査・整備等	船舶 船員	観光	一般 管理	計
問い合わせ	0	0	1	0	0	0	0	2	0	24	0	0	0	27
意見・要望	0	50	172	0	0	0	14	0	0	5	0	0	0	241
合計	0	50	173	0	0	0	14	2	0	29	0	0	0	268



(2) 行政相談の主な事例

①バス関係

相談内容：路線バスの車内の運賃料金表示板の整理番号が見えにくい。

対 応：事業者を確認したところ、当該表示板は古くなっており、劣化しているので、蛍光塗料を塗って対応したい旨の回答を受けた。

②タクシー関係

相談内容：タクシーを利用した時に障害者手帳を提示したところ、記載内容を控えられた。他のタクシーを利用した時には提示だけで割引された。どの取り扱いが正しいのか。

対 応：事業者を確認したところ、障害者手帳の提示（所持確認）で運賃割引を適用するよう乗務員に周知しているとのことだった。再度、乗務員教育を徹底するよう指導。

※タクシー運賃の障害者割引については、事業者が運賃認可申請の際に提出する運賃料金の適用方に記載されており、障害者手帳を所持していれば適用できることになっており、沖縄県内の全タクシー事業者は同様の取り扱いである。

③貨物関係

相談内容：軽貨物自動車は黄色ナンバーで有償運送行為をしているので処分してほしい。

対 応：調査したところ、そのような事実はなかった。当該事業者は数年前に

指導を受け、現在は事業用自動車で運送を行っているため、特段問題なしとして処理した。

④整備関係

相談内容：自社以外から自動車検査員を選任する場合の要件について、例えば、アルバイトとしての選任も可能か。

対応：指定工場における自動車検査員は、当該事業場に専属的に常駐し、組織体に含まれ、事業場管理責任者の指揮命令系統に含まれていることが必要なので、選任不可であると回答した。

3. バリアフリー化の状況

(1) 車両等

①バス

平成22年度末の沖縄ブロックにおけるバス車両のバリアフリー化は、低床バスは4.1%（29両）で、内訳は、ワンステップバス2.8%（20両）、ノンステップバスは1.3%（9両）となっています。

②モノレール

平成22年度末の沖縄ブロックにおける軌道車両のバリアフリー化は、100.0%（26両（13編成））ですべての編成がバリアフリー化されています。

③船舶

平成22年度末の沖縄ブロックにおける一般旅客定期航路船舶（5t以上）のバリアフリー化は、29.9%（20隻）です。

表 車両等のバリアフリー化の状況

	総 数	適合数	適合率(%)
バ ス	715 両	29 両	4.1
モノレール	26 両(13 編成)	26 両(13 編成)	100.0
船 舶	67 隻	20 隻	29.9

※ バスの適合数は低床バス。

(2) 旅客施設

①バスターミナル

平成22年度末の沖縄ブロックにおけるバスターミナルのバリアフリー化は、段差の解消は60.0%（3施設）、視覚障害者誘導用ブロックの設置は20.0%（1施設）、身体障害者用トイレの設置は40.0%（2施設）です。

②モノレール駅

平成22年度末の沖縄ブロックにおける軌道駅のバリアフリー化は、段差の解消は100.0 %（15 駅）、視覚障害者誘導用ブロックの設置は100.0 %（15 駅）、身体障害者用トイレの設置は73.3 %（11 駅）です。



【車椅子用券売機】



【車椅子乗降装置】



【音声誘導装置・エレベータ】



【身体障害者用トイレ】

③旅客船ターミナル

平成22年度末の沖縄ブロックにおける旅客船ターミナルのバリアフリー化は、段差の解消は87.5 %（28 施設）、視覚障害者誘導用ブロックの設置は40.6 %（13 施設）、身体障害者用トイレの設置は18.8 %（6 施設）です。

表 旅客施設のバリアフリー化の状況

	総施設数	段差の解消	視覚障害者誘導 ブロック	身体障害者用 トイレ
バスターミナル	5	3 (60.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
モノレール駅	15	15 (100.0)	15 (100.0)	11 (73.3)
旅客船ターミナル	32	28 (87.5)	13 (40.6)	6 (18.8)

※ 下段（ ）は、適合率（%）

4. お知らせ

(1) 交通消費者相談窓口一覧

団 体 名	窓 口	連 絡 先
沖縄総合事務局運輸部	企画室	098-866-1812
沖縄県企画部	交通政策課	098-866-2045
沖縄県バス協会		098-867-2316
沖縄県ハイヤー・タクシー協会		098-855-1344
沖縄旅客船協会		098-868-4449

(2) ホームページによるご意見・ご質問の募集

沖縄総合事務局運輸部では、運輸行政に関するご意見・ご質問をホームページ上でも受け付けています。

沖縄総合事務局運輸部ＨＰアドレス <http://www.ogb.go.jp/nyu/index.html>



内閣府
沖縄総合事務局運輸部